

令和3年度
教育課程研究集会
特別活動

特別活動の指導における ICTの活用について

令和3年8月

奈良県立教育研究所教育支援部 支援係

指導主事 樺山 敬剛

隅岡 寛延

1 特別活動の指導においてICTを活用する際のポイント

新学習指導要領とICT活用の関係

特別活動の目標 ()は中学校学習指導要領

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

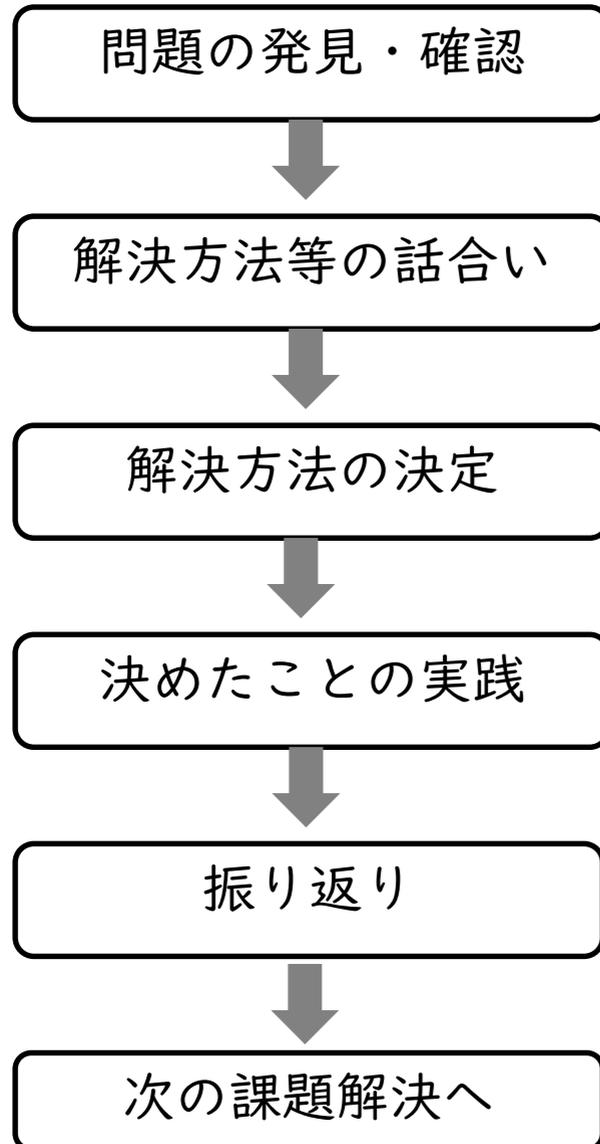
- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己（人間として）の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別活動の方法原理は「なすことによって学ぶ」であり、直接体験が基本であるが指導内容や活動場面に応じて、適切にコンピュータや情報通信ネットワークなどを活用することによって、児童生徒の学習の場を広げたり、学習の質を高めたりすることができる。特別活動の特質である「集団活動、実践的な活動」の代替としてではなく、特別活動の学習の一層の充実を図るための有用な道具としてICTを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用することが重要である。

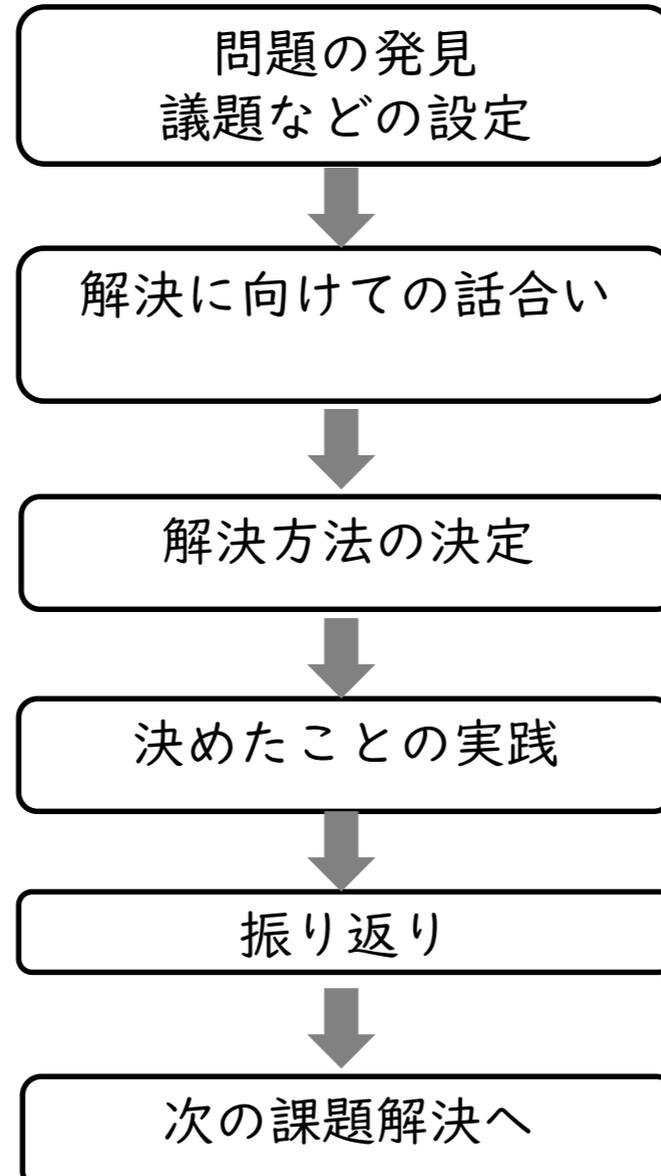
資質・能力を育むために特別活動で重視する「学習の過程」

※は小学校及び義務教育学校前期課程

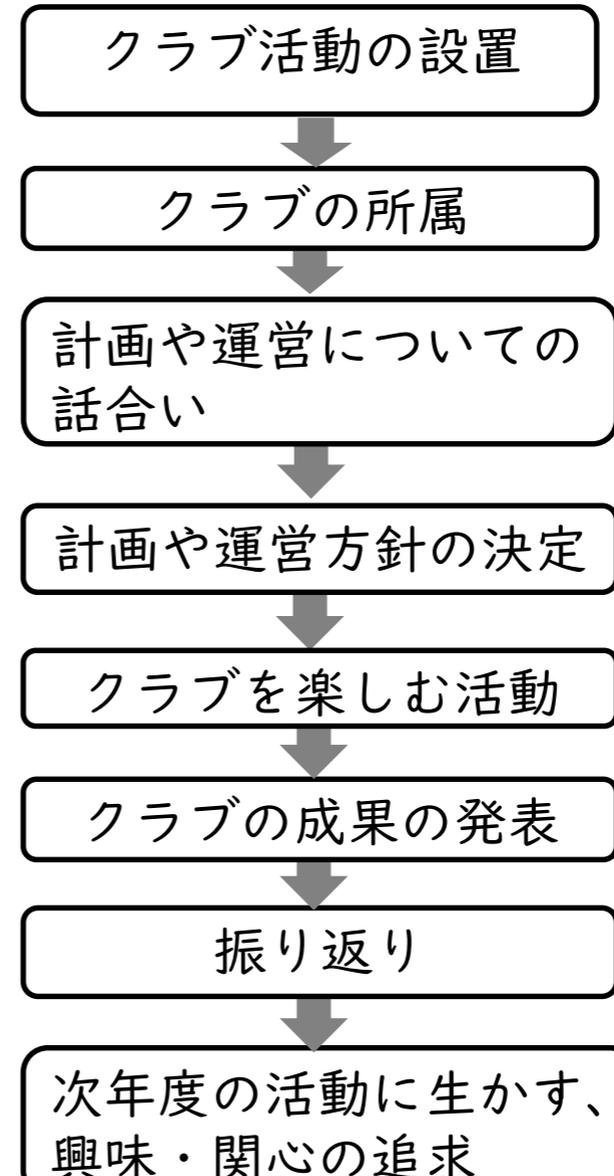
学級活動



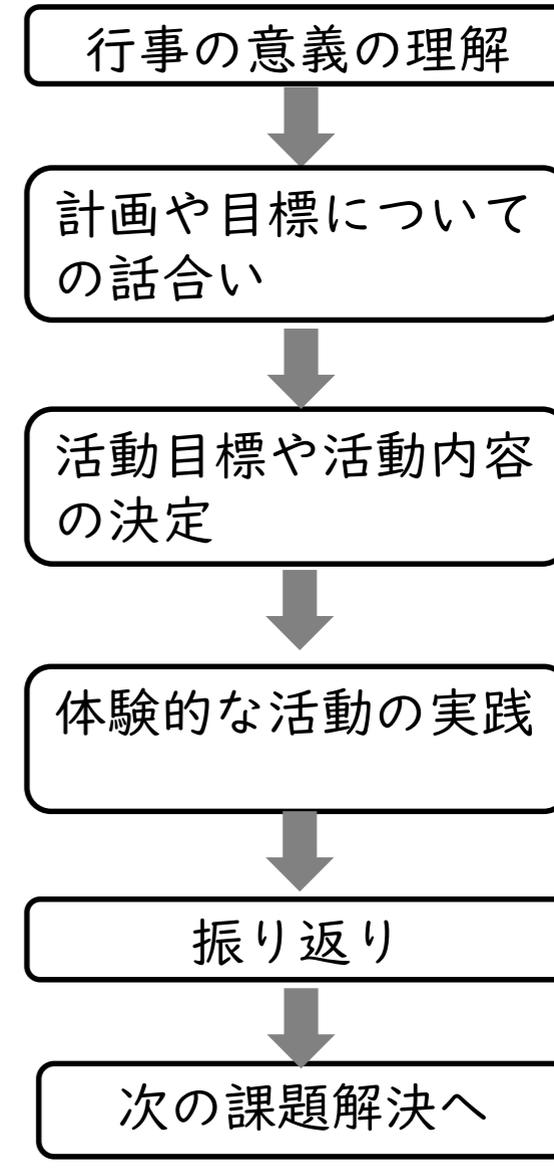
生徒会（※児童会）活動



※クラブ活動



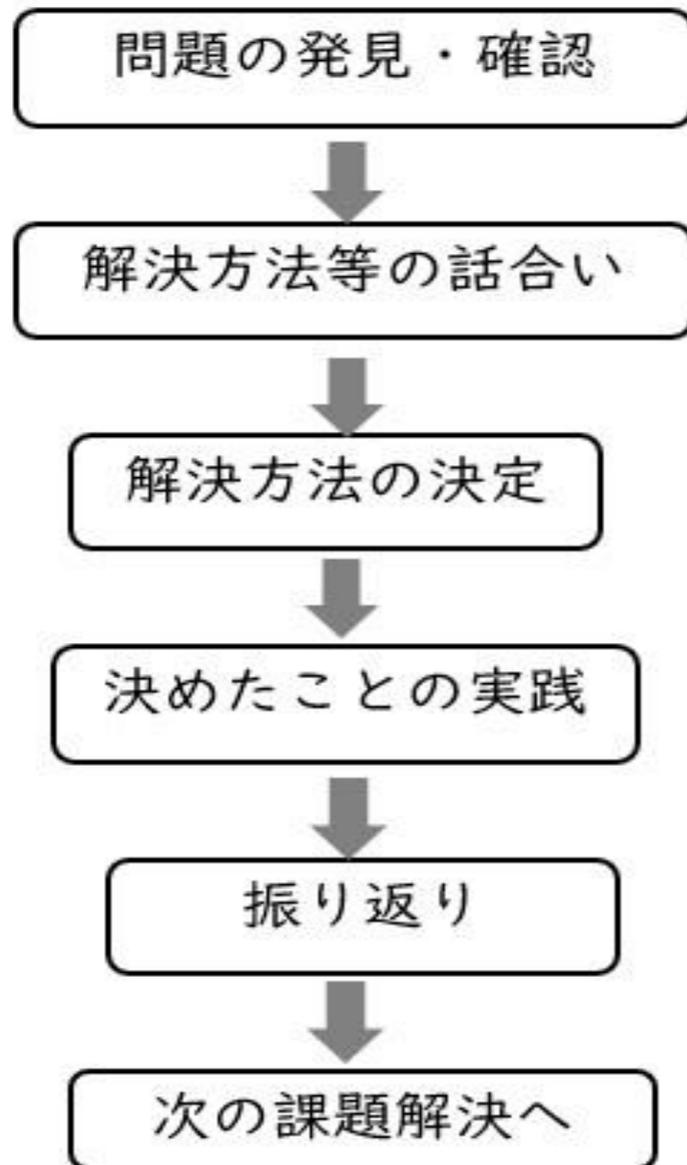
学校行事



2 ICTを活用した特別活動の具体例

学級活動におけるICTの活用

学級活動



活動のねらい

学級や学校における集団や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、ICTを効果的に活用してよりよく実践できるようにする。学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」では、議題を選定する際に活用するなど、多様な意見のよさを生かして**集団として合意形成**を図って協働して実践する。学級活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」(3)「一人一人の自己実現とキャリア形成」ではICTを活用して課題意識を高めるなど、学級での話し合いを生かして**一人一人が自分に合ったためあてや実践方法を意思決定**して実践できるようにする。

ICT活用の際の留意点

学習過程に合わせてICTの活用場面や活動内容を事前によく検討し、ICTを活用するための授業展開にならないように留意する。特に、**本時の活動においては「児童生徒同士の話し合い」を大切にすること。**

学級活動(1) 「学級や学校における生活づくりへの参画」における活用例

【議題の選定や、出された意見の集約、分類・整理】



ICT活用の具体的な活用場面の例

事前の活動 (議題の選定)

- ・ 計画委員会で議題を選定する際に、出された議題案を思考ツール機能を活用して、分類・整理する。
- ・ 学級の全員に関わる問題か、学校の生活がよりよくなるための問題か、自分たちの力で解決できる問題か、などの視点をもとに**適切に選定**し、電子黒板等で掲示して、学級の全員の了承を得た上で議題を決定する。

本時の活動 (出された意見の分類・整理等)

- ・ 事前に付箋機能 (Jamboard等) に自分の考えを書き込んでおく。本時では、学級全体意見を集約したり、出された意見を思考ツールを活用して**分類・整理**したり、相違点を明確にしたりして話し合う。
- ・ 少数意見も大切に話し合い、**多様な意見のよさを生かして合意形成を図り**、「自分にとっても、みんなにとってもよいこと」を決めることができるようにする。

※活用したソフトや機能：思考ツールや付箋機能 (スライドやJamboard) など

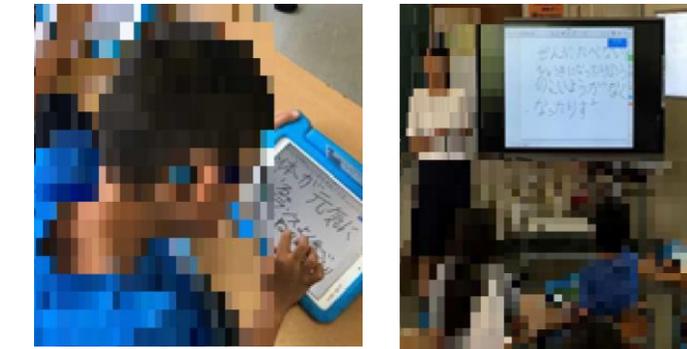
学級活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」 学級活動(3)「一人一人の自己実現とキャリア形成」における活用例

ICT活用の具体的な活用場面の例

【アンケート結果や資料の提示】



【考えを共有して話し合ったり、 アドバイスし合ったりする】



本時の活動 (アンケート結果や資料の提示)

- ・ 題材についての学級の現状や一人一人の考えなどを事前に調査し、アンケート結果を電子黒板等で掲示して、問題意識を高める。
- ・ 日常生活の様子を映像や写真で振り返ることで、題材に対する問題意識を高める。
- ・ 上級生からのビデオメッセージやゲストティーチャーのインタビュー動画を視聴し、目指したい姿を具体的にイメージしたり、解決方法に生かしたりする。

本時の活動 (話し合いや意思決定に生かす)

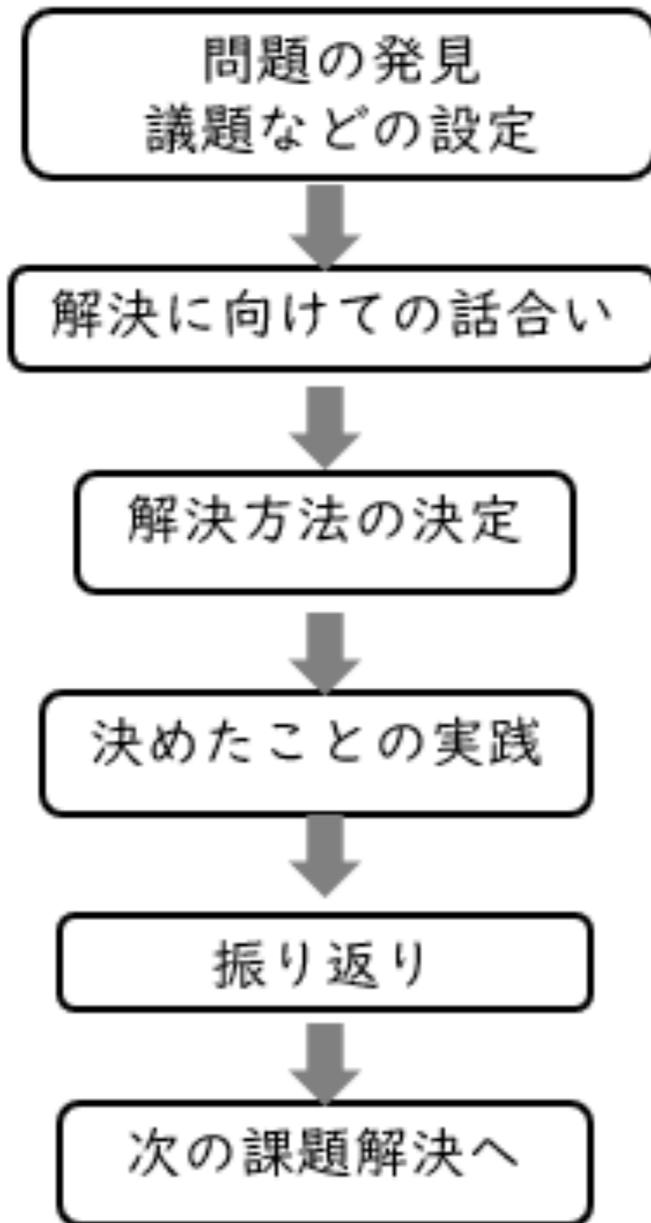
- ・ 一人一人が自分の考えをタブレット端末に記入し、グループでアドバイスし合ったり、電子黒板を活用して学級全体で共有して話し合ったりして考えを広げ、発想の違いを生かしてよりよい解決方法を見つけられるようにする。
- ・ **話し合いを生かして**、自己の課題解決やなりたい自分になるために、**自分に合った具体的な個人目標を意思決定**することができるようにする。

※活用したソフトや機能：写真・動画撮影機能 (Meet)、アンケート機能 (Forms)
思考ツールや付箋機能 (Jamboard) など

生徒会（※児童会）活動におけるICTの活用

※は小学校及び義務教育学校前期課程

生徒会（※児童会）活動



活動のねらい

学校生活の充実と向上のために、児童生徒がICTを活用して主体的に調べたり、課題を解決するために話し合ったり、協力して実践したりして、**参画意識を高め、自分たちでよりよい学校生活をつくる**ことができるようにする。

決められた仕事だけをやるのではなく、発意・発想を生かして、活動の計画や運営に取り組み、異年齢の友達と楽しく触れ合い、交流を図ることができるようにする。

ICT活用の際の留意点

活用場面や活用方法を工夫して、下学年の児童も児童会活動に主体的に取り組むことができるようにし、参画意識を高める。

児童生徒へ任せきりにせず、**教師の適切な指導の下**で行う。

特別活動におけるICT活用のまとめ

「活用するため」だけの活動にならないように留意

特別活動の目標、内容に合ったもの

学習過程における活用場面を検討し、効果的に活用

3 キャリア・パスポートについて 「キャリア・パスポート」の展開

学習指導要領「前文」

前文：学習指導要領にはじめて設けられた。

「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識する」

- ⇒若者は本来、可能性にあふれているはず
- ⇒日本の若者の学習意欲、自己肯定感や社会参画意識の低さは何に起因するのか
- ⇒**学習者の主体性や意欲を引き出す学習評価になっているか**

学習指導要領総則

児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

見通し、振り返る活動

児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科（・科目）等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

キャリア教育

〔学級・ホームルーム活動〕

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

中教審答申「キャリア・パスポート」並びに小・中・高等学校及び特別支援学校における学習指導要領特別活動第2〔学級活動・ホームルーム活動〕の3内容の取扱い(2)にある「(前略)児童(生徒が活動を記録し蓄積する教材等(後略))」を「キャリア・パスポート」と呼ぶ。
ただし、都道府県や設置者、各校において独自の名称で呼ぶことは可能とする。

学級活動(3)

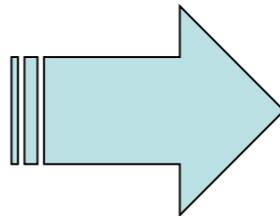
小学校生活を振り返り、中学校生活に見通しをもつと共に、新たな集団づくりを考えよう!

個人の活動

自分の長所・短所、好きな教科、苦手な教科、小学校で頑張ったことなど



記録の振り返り
(確かな自己理解)



集団の活動

私は、英語が得意なんだ!

私は、数学が苦手なんだ!

すごいね!
尊敬するよ!

わかる!
私も同じ!

それぞれ違いがあるんだね!



見守る先生方

相互理解
(共感する雰囲気)

学級活動(3)

小学校生活を振り返り、中学校生活に見通しをもつと共に、新たな集団づくりを考えよう!

集団の活動



何でそう考えたの?

私は、人に優しくなりたい!

いじめのない学級にしよう!

小学校の時にいじめに遭った。自分と同じ思いをしてほしくない。

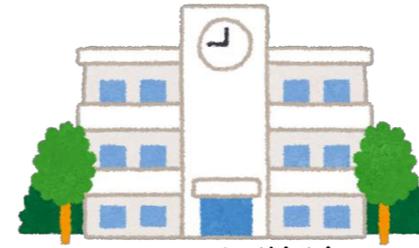
感動しちゃった。

私もいじめは絶対に嫌だ。もし困ったことがあったら言ってね。

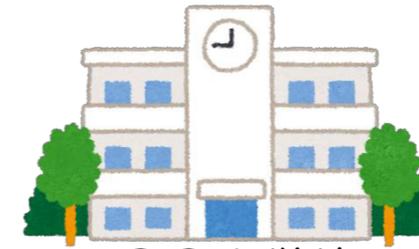
決意表明の発表



〇〇小学校



□□小学校



◎◎小学校

⋮

表紙・名前の異なる
キャリア・パスポート



中学校

資質・能力ベースで考えれば、各小学校の学びは同じである。

高校生の感想

「キャリア・パスポート」を活用したホームルーム活動後の感想です。



記録は大事です。人の記録は都合良く書き換えられ、ついついその人の弱い癖が繰り返し表出することになる。よいことも嫌なことも書き残しておくことで確かな振り返りと根拠をもった見通しができることになります。また、他者からの評価も。

友人が新しい自分を発見してくれたり、存在や頑張りを認めてくれたり。心が温かくなる50分でした。

3 キャリア・パスポートについて “今ある宝”を大切にする

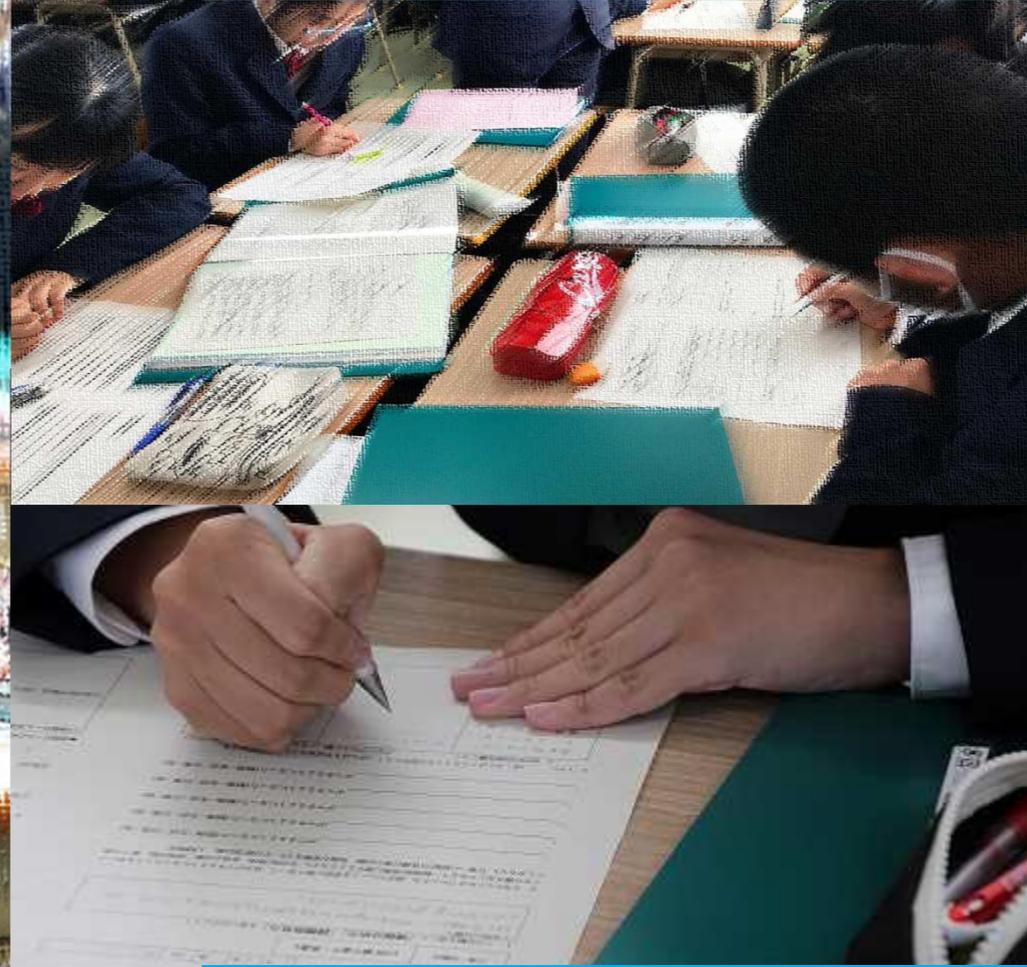
教科や行事が生み出すたくさんの“宝”

授業のリフレクション



作文やレポート

自己評価票



学校行事の成果や反省

“今だけの宝” になっていないか

児童生徒が日々積み重ねている手帳や教科のワークシート、学校行事等の記録をこれまで以上に大事にしていくこと。でも

・・・

小学校から高等学校までのすべての記録を持ちあがるには無理がある。だから、少しの工夫が求められる。



I 日常の授業や行事等の記録



II 学期や年間、入学から卒業を見通し振り返る記録



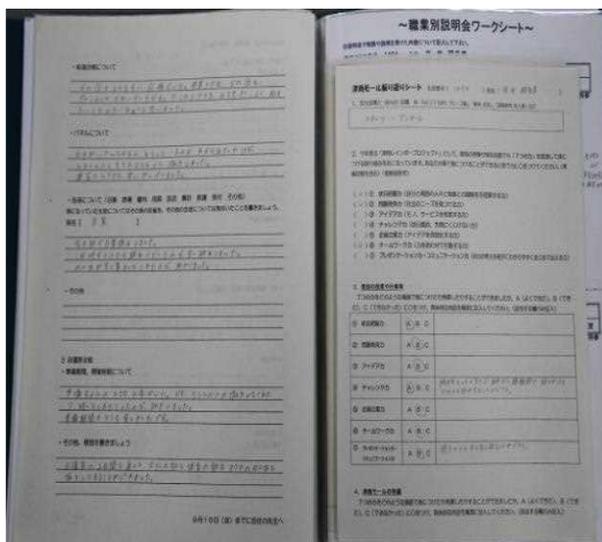
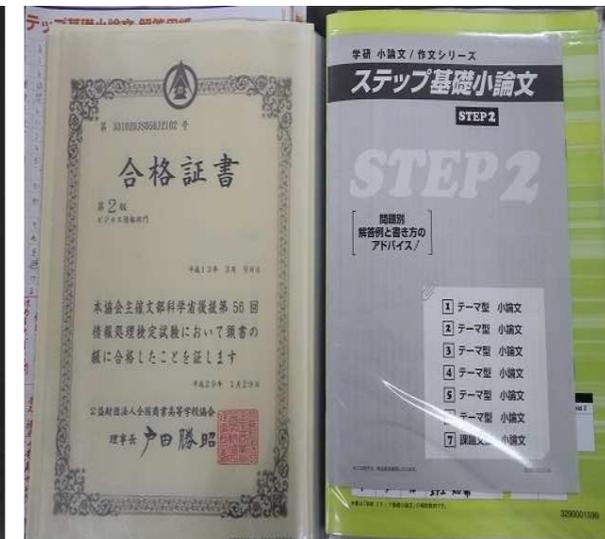
III 学校生活全体、これまでの生活等を振り返り、これからの生き方を見通す記録

書くこと、蓄積することも大事だが、ポイントは“取捨選択”

教室や廊下に掲示



ファイルに保存



振り返りが困難
(ICT化しても同じ)



少しの工夫で

学期や学年を目途にした“再編集”

目標（1学期） テスト70点以上をキープ													
手立て（具体的取組 何を、どのように）	評価												
勉強を基本的頑張る	普通に頑張れた												
家庭学習をしっかりと	内容が良くなかった												
<p>において、1学期に頑張ったことやできるようになったことをまとめよう。</p> <table border="1"> <tr> <td>授業やテストなど</td> <td>生活面</td> </tr> <tr> <td>以外は普通だった。</td> <td>遅刻・欠席がなかった</td> </tr> <tr> <td>部活動</td> <td>資格取得</td> </tr> <tr> <td>7、部活動はものに努力した</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>に向けて（進路への取組）</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>元々明確な進路を造り出した</td> <td></td> </tr> </table>		授業やテストなど	生活面	以外は普通だった。	遅刻・欠席がなかった	部活動	資格取得	7、部活動はものに努力した	なし	に向けて（進路への取組）	その他	元々明確な進路を造り出した	
授業やテストなど	生活面												
以外は普通だった。	遅刻・欠席がなかった												
部活動	資格取得												
7、部活動はものに努力した	なし												
に向けて（進路への取組）	その他												
元々明確な進路を造り出した													
振り返りをもとに、2学期に向けての目標や手立てを考えよう。													
（1学期）	（2学期）												
テストの点数を上げてほしい	テストの点数を上げてほしい												
手立て（具体的取組 何を、どのように）													
家庭学習のついでに 内容と時間を増やす													
<p>☆先生からのメッセージ☆</p> <p>よい教師になるのか、期待しています！</p>													

10年後の自分
「教師」

家庭学習を
しっかり

「50点」
内容がよくなかった

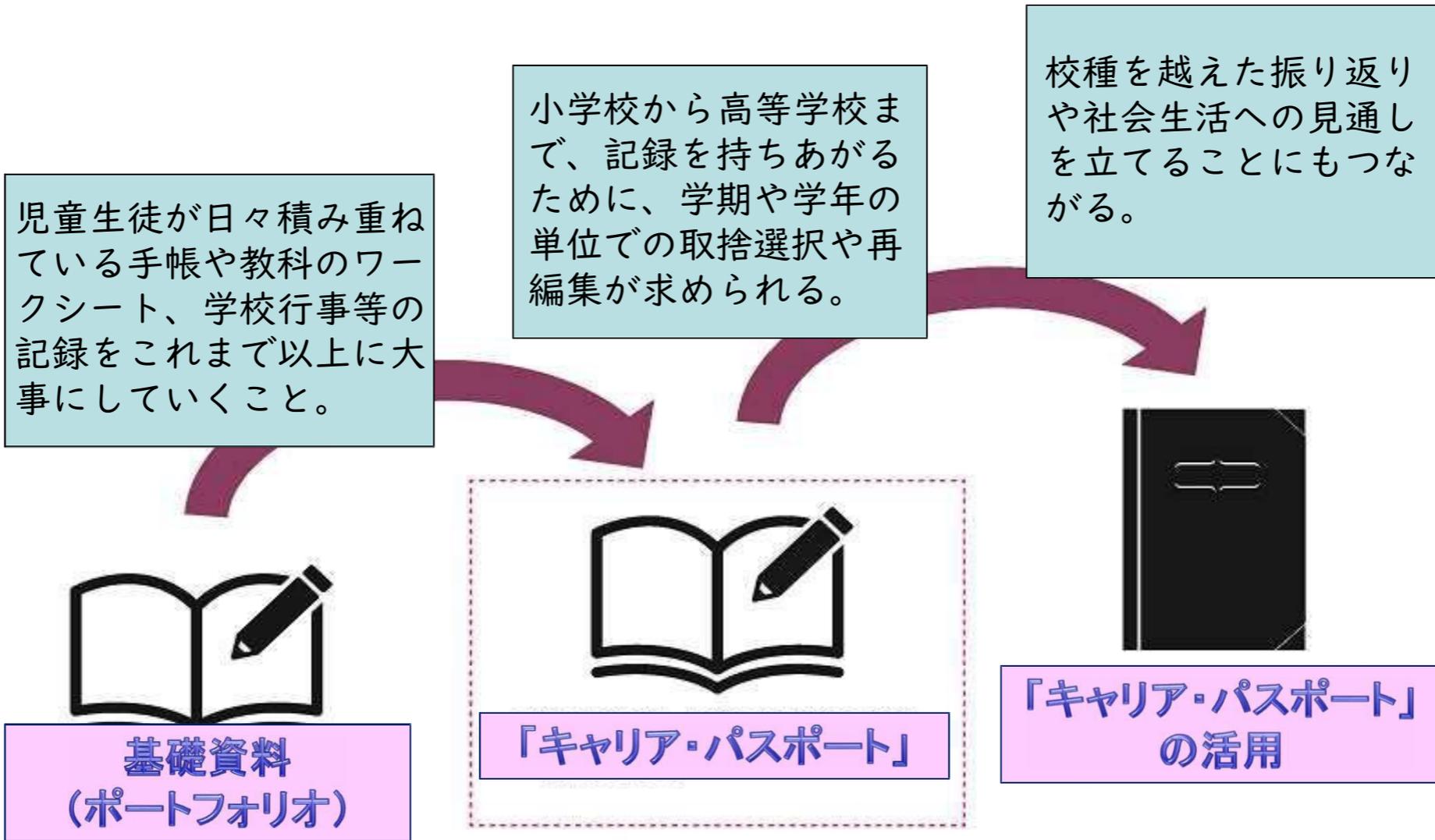
ボランティアと
部活はすごく努
力した

明確な進路をつ
くり出せた

家庭学習の徹底
内容と時間を増やす

（教師コメント）
将来どんな教師になるのか
期待しています！

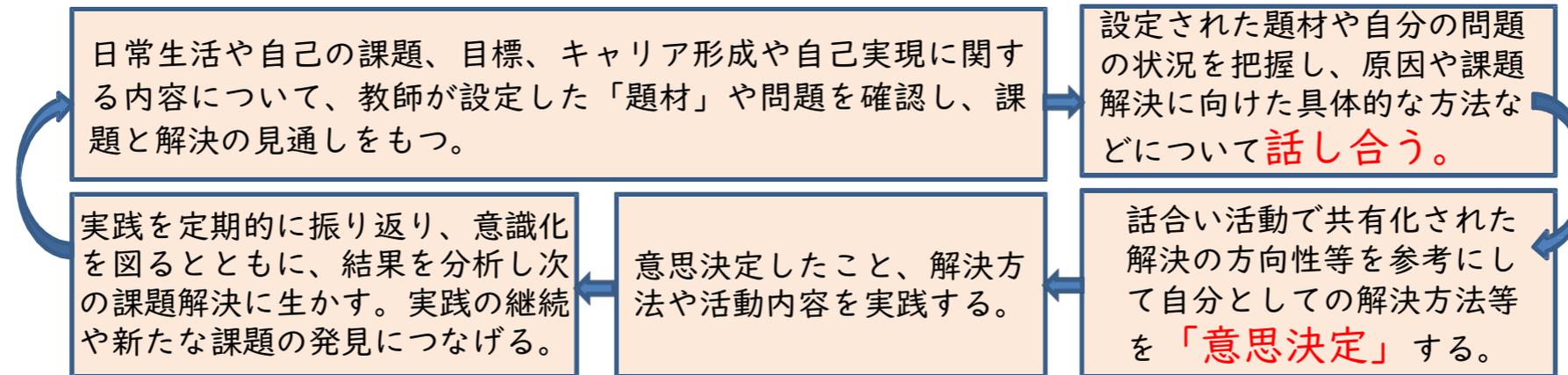
“今ある宝”を“生涯の宝”に



(2) 学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、学級活動・ホームルーム活動の目標や内容に即したものとなるようにすること

記録の活動のみに留まることなく、記録を用いて話し合い、意思決定を行うなどの学習過程を重視すること

学級・ホームルーム活動(3)の学習過程



学級活動における「キャリア・パスポート」活用事例
国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
キャリア教育リーフ「キャリア・パスポート」特別編